

道標

みちしるべ

2012 **SPRING** Vol.24



CONTENTS

巻頭エッセイ「ことのは」

福岡 伸一

02 **科学のことば，芸術のことば**

実践 新教材の授業実践

03 場面の展開や人物の描写に注意して
——『暗やみの向こう側』

黒田 諭

連載 3

07 国語科におけるメディア教育の意義

羽田 潤

書写

13 教師用指導書付属DVD-ROMを活用した指導方法
——第1学年での行書教材『栄光』指導での活用アイデア

14 中学校国語科書写観点別評価のあり方について
釧持 勉

平成24年度版

『伝え合う言葉 中学国語』移行措置資料

18 伝統文化と言語

31 漢字



福岡 伸一

科学のことば、芸術のことば

微生物、血球などの発見をして生物学史にその名をとどめるアントニ・レーウエンフックは一六三二年十月、オランダの大都市デルフトに生まれた。彼が使用した自作の顕微鏡は、現在の顕微鏡とは似ても似つかぬ、小さな金属の板に球形のレンズを挟み込んだ質素なものだった。視野は狭く、歪みも大きかった。しかし倍率だけは三百倍近くという優れた性能を有していた。彼はレンズ磨きの工夫を重ねて、一心に観察を続けた。

意外なことに、今日、世界中に熱烈なファンがいる画家ヨハネス・フェルメールも同じ年、同じ場所で生まれた。つまり二人は同じ年で、狭い街のご近所さんだった。とはいえ、二人の直接的交流を示す文献的な記録はない。ただし、フェルメールの死後、レーウエンフックが遺産管財人を務めたことがわかっている。しかし、私は思う。二人はある興味を共有していたのではないだろうか。光の科学。光がどのように見え、その粒たちをいかに表現すべきか。フェルメールは、部屋の正確な遠近をキャン

パスに写し取るため、カメラ・オブスクーラというレンズつきの光学機器を使っていたらしい。それはひょっとしてレンズの作用に詳しいレーウエンフックによってもたらされたものではなからうか。あるいは、フェルメールの一对の作品『地理学者』と『天文学者』はともにレーウエンフックをモデルに描いたものではないか。レーウエンフックのごく初期の観察記録にはこう記されている。自分は絵が上手に描けない。だから顕微鏡のスケッチは熟達の画家に頼んで代わりに描いてもらった。それは一体誰だろう。そしてそれはどんな絵だったのだろうか。ロンドンの王立協会に死蔵されていたオリジナル手稿を閲覧した私は息をのんだ。昆虫の脚を丁寧に描いた顕微鏡スケッチはあまりにも鮮やかで、あまりにもつややかだった。これは確かに、科学者ではなく芸術家の手によるものだ。私は不思議な事実に気づいた。レーウエンフックの観察スケッチは一六七六年の半ば以降、急にそのタッチとトーンに変化が生じているのだ。絵は細い線だけで描かれた平板なものにな

り、初期のスケッチに見られたような動的な勢いは完全に消え去ってしまふ。私は、ある偶然の一致を指摘しておきたい。フェルメールは一六七五年十二月十五日、四十三歳の若さでこの世を去った。科学者と芸術家は同じことばをめぐっていた。その交点を巡って、私の夢想は遠い十七世紀を漂う。



■福岡 伸一(ふくおか しんいち)
分子生物学者。1959年、東京生まれ。京都大学卒。青山学院大学教授。『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書)、『動的平衡』(木楽舎)など、「生命とは何か」をわかりやすく解説した著書多数。ほかに『世界は分けてもわからない』(講談社現代新書)、阿川佐和子さんとの共著『センス・オブ・ワンダーを探して』(大和書房)、『フェルメール 光の王国』『動的平衡2』(ともに木楽舎)など。

*読者プレゼント
福岡先生のサイン入り著書を4名のかたにプレゼントいたします。応募方法は、P17をご覧ください。

場面の展開や登場人物の描写に注意する

文学（『暗やみの向こう側』）

第一学年



場面の展開や

人物の描写に注意して

——『暗やみの向こう側』

北海道教育大学附属函館中学校教諭 黒田 論くろだ さとし

一 はじめに

今江祥智の作品は、『伝え合う言葉 中学国語』では初めて掲載されるが、小学校の国語教科書『ひろがることば しょうがくこころ』（教育出版）ではこれまでも取り上げられてきている。学習指導にあたっては、授業の導入時に学習内容を想起させたり、作品を紹介したりしながら本教材に対する学習者の興味・関心を高めさせたい。

『暗やみの向こう側』では、同じ時間に起きているできごとが、一枚のコンクリート境界にして書かれており、最後になって初めて全ての登場人物が、同じ場面に描かれる。また、細かい描写に着目すると、土の中と地面の上のできごとがつながっていることがわ

かる。

このような教材の特徴を生かしながら、本教材では、文学的文章における文章の解釈、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。」「C(1)ウ」を指導する。その際には、小学校での音読に関する既習事項をふまえ、「様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。」「C(2)ア」という言語活動をとおして、文章の理解をいっそう深める学習を行っていく。また、「そいつ」という描写に着目させ、代名詞のもつ表現上の効果などについて理解させる。

二 教材の目標

◆作品の前半部と後半部の対応関係に注意して、作品の理解を深める。【第一学年 読むこと C(1)ウ】

●語り手は「蛇」のことを「そいつ」と呼んでいるが、この言い方の効果について考える。【第一学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項「伝イオ」】

◇句読点や間の取り方に注意して、音読をする。【第一学年 読むこと C(2)ア】

三 学習計画（全五時間）

〈第一時〉登場人物を確認しながら、文章の構成や展開を捉える。

〈第二時〉作品の前半部と後半部の対応関係を捉える。

〈第三時〉「そいつ」という表現の効果について考える。

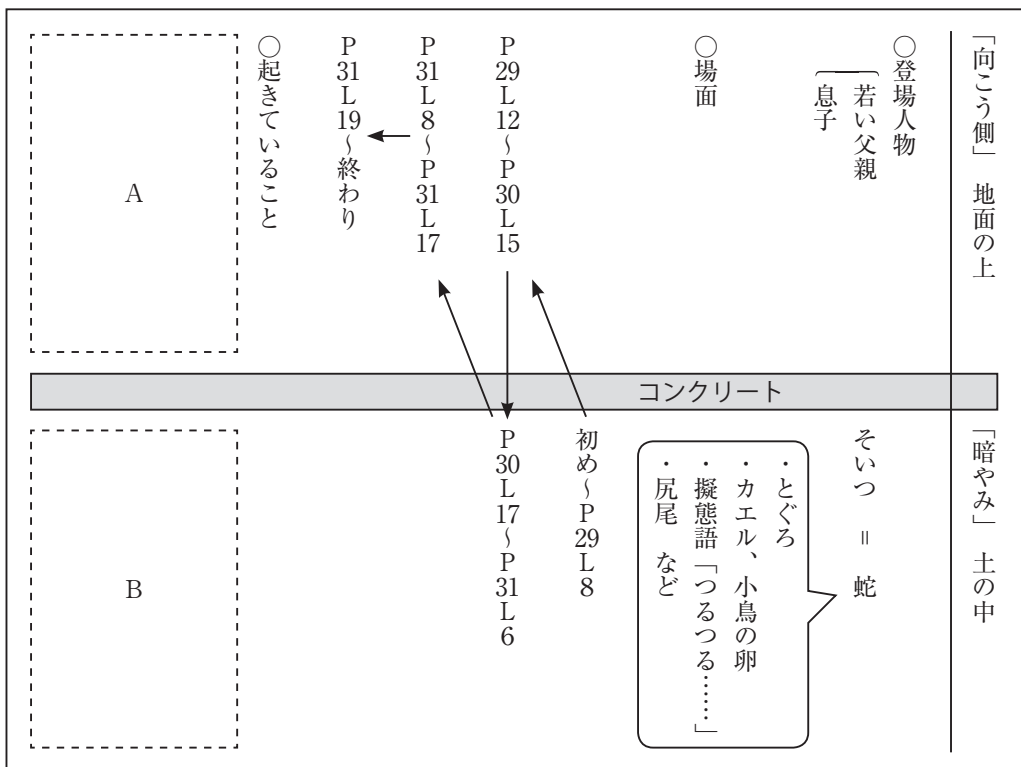
〈第四時〉句読点などの記号が用いられている意味や効果について
考え、音読する。

〈第五時〉音読をとおして新たに気づいたことをノートにまとめる。
これまでの学習を振り返り、『暗やみの向こう側』のおも
しろさをノートにまとめる。

四 授業の展開例

① 展開例（第一時）

学習活動		指導上の留意点／★評価	
ま と め	導入	1 学習目標と本時の課題を確 認する。	・ 学習目標と本時の課題を板 書で示す。
	展開	2 全文を読み、あらすじをつ かむ。	・ 各自で音読させる。
ま と め	展開	3 数字や記号（＊）、登場人 物に留意しながら、文章の構 成や展開を捉える。	・ 登場人物や、それぞれの場 面が視覚的にわかるよう、 板書を工夫する。
	展開	4 コンクリートの上と下で、 どのようなことが起こってい るのか整理する。	・ 3で用いたノートに書き加 えさせる。
5 整理した内容を見直し、 ノートを提出する。		◆登場人物を確認しながら文 章の構成や展開を捉えてい る。【読む能力】	



・Aの記述例（生徒のノートから抜粋）
 若い父親と息子が、草花好きの母さんのために庭造りをしようと、車庫代わりになっていたコンクリートを壊している。そうしたら一匹の蛇が出てきた。

・Bの記述例（生徒のノートから抜粋）
 冬眠から目覚めた蛇が、春になって外に出ようとしたが、蓋をされていて出られない。途方に暮れていたところ、誰かが蓋を壊してくれている。やがて外へ出られた。

②展開例（第四時）

学習活動	指導上の留意点／★評価
導入 1 本時の課題を確認する。 2 文章中に用いられている記号を確認する。	・課題を板書で示す。 ・「……」「 <u>、</u> 」「 <u>〇〇</u> 」「 <u>—</u> 」「 <u>々</u> 」「 <u>*</u> 」などを確認させる。
展開 3 文章中に用いられている記号の意味や効果について考える。 4 記号の意味や効果をふまえて、各自で音読する。 5 互いの音読の仕方をグループごとに交流する。	・「各自で考える」→「グループでの確認」→「一斉」という流れで指導する。 ・内容とのつながりを意識しながら音読させる。 ・一ページ程度を選んで音読させ、どのように工夫したのかを口頭で交流させる。

まとめ

6 作品の内容で新たに気づいたことや考えたことをメモする。

◆音読をとおして、内容をより理解しようとしている。【国語への関・意・態】

《生徒のノートの一部》

「〇〇」 ↓ 強調することで、興味をひく効果。

「……」 ↓ 余韻を残すことで、思考や行動が遅いことを伝える効果。

「、」 ↓ とつとつの内容（事柄）を区切ることで、よりリアルに想像しやすくする効果。

「々」 ↓ 会話に用いることで、間を感じさせ、会話のタイミングやばばさを想像させる効果。
 ↓ 地の文の前で間を置くことで、語り手が展開がなされていることを表す効果。

「／ノ」 ↓ 今までのめかしていたことをは、そりと伝える効果。

「カッ」 ↓ 登場人物の気持ち（目立たせたいところ）を伝える効果。

「カザカフ」 ↓ 辞書通りの意味ではない言葉を示す効果。

五 授業の実際

①第一時の「導入」において

どの教材を用いた授業でもそうであるが、学習（単元）の導入時には、学習目標を明確に示すことに力を入れている。本実践の第一時では、『暗やみの向こう側』をとおして身につけたい力を次のような手順で示した。

(1) 今回の「読むこと」の学習では、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる」力を身につける。

(2) この力を身につけるために『暗やみの向こう側』を用いて学習する。教科書P26の右側の青い帯のところを読んでみよう。

『暗やみの向こう側』には、ある春の日のできごとが描かれている。それは地中の「そいつ」の視点と、地上の「父親」と「息子」の視点によって構成されている。二つの場面がどのように展開されているのか、読み分けよう。

(3) 具体的には、『地中』と『地上』の様子やできごとの対応関係に注意して、作品の理解を深めること。『「そいつ」という言い方の効果について考えること。』の二つが学習目標となる。そして、句読点や間の取り方に注意して音読するという言語活動をとおして、より内容を理解していく。

この他にも、平成二十四年度版の『伝え合う言葉 中学国語』では、巻頭の折込や各教材の冒頭に「学習のねらい」が示されており、

生徒が自分自身で目標を見定めて学習することができるようになっていく点を説明した。

②第四時の「展開とまとめ」において

本時における音読は、「聞かせる」ためのものではなく、「内容を理解する」一助として取り扱っている。授業では、それぞれの箇所をどのように理解したのか、理解したことをどのように音読しようとしたのかを明らかにすることを意識させた。そのために、記号の解釈や自分の読みの内容を生かすことのできる部分を各自で選び、少人数のグループで交流するという学習を盛り込んだ。

六 成果と展望（「音読する」という言語活動について）

第四時での、記号の意味や効果について考える学習では、多くの考えが示され、比較的活発な学習を展開することができた。しかし、句読点の打ち方や、会話や間を表す記号などに留意しての音読では、それらを意識しているかどうか、音声表現としてわかりにくいという結果が見られた。音読の指導は既に小学校で行われており、中学校では、文章の内容についての理解をいっそう深めるためなどに取り扱う言語活動という位置づけではあるものの、中学校における音読指導の充実の必要性を改めて感じた。今後、小学校の指導事項や、『第一学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』『伝言（ア）』を補完的に取り扱うことも視野に入りたい。

国語科におけるメディア教育の意義

佐賀大学文化教育学部准教授 羽田 潤 はだ じゅん

一 はじめに

連載の第二回では、第一学年の『写真と言葉が生み出す世界—メディアリテラシー入門』の中から、「詩のギャラリーへようこそ」をとりあげ、写真を使った新たな詩の読解学習について紹介した。今回は、第二学年の『ごんぎつね』の読解（『物語を読み解く—メディアの解釈』）について述べていく。（本誌P11参照。）

二 言語表現と映像表現の違いを考える

第一学年で詩の解釈を鮮明化していく際に「写真」を活用したように、第二学年では、『ごんぎつね』に対する解釈を鮮明化するため、「映像化」（具体的には絵コンテとの比較）という手法を用いている。言語表現で書かれた小説を読むとき、頭の中で視覚化しながら読むことは誰しも経験のあることだろう。主人公のイメージを具体的な俳優に置き換えながら読むことも多い。だからこそ、ある小説が映画化されたときに、「原作とイメージが違う」というような感想が出てくる。読むという行為は、頭の中で自分なりに作品を語り直す行為でもある。とはいえ、完成された映像作品のように明確に全てを頭の中で映像化している人はまれであろう。言語で示された意味

と自分の記憶とを結びつける作業は、時に曖昧で、だからといって内容を理解できていないわけでもない。活字の物語世界は遊びのあの想像の中で楽しむものともいえる。

『ごんぎつね』は、生徒が児童期に必ず出会っている物語である（平成二十三年版小学校教科書では五社が第四学年で採用）。どのような授業を通過していようと、個々に『ごんぎつね』に対する印象が残っているだろう。そういった物語を、中学二年生という年齢で再び出会わせ、かつての自分の読みを振り返り、また、「映像化」という手段をとることで解釈を鮮明化し、「批評」するための言葉を獲得させていくことに本活動の意義がある。「映像化」は、自らの解釈を鮮明化させると同時に、「物語を読み解く」という作業に自覚的になってもらうこともねらいとなる。また、映像化という社会的な作業への参加で、「解釈」行為が社会とつながっていることに気づかせたい。このような自覚的・社会的な解釈活動が、最後に書かせる「批評文」の言葉を生きたものに変えていくのである。

三 新学習指導要領における「メディアの解釈」

今回の学習活動は、第二学年「読むこと」の指導事項の「オ 多

様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。」、言語活動例として「ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。」に対応させている。『こんぎつね』の映像化（メディアの解釈）の観点をもちこむことで、「多様な方法」の幅を広げ、「情報の比較」を日常的な解釈行為の延長線上にあるものとして位置づけることができる。映像化とはいっても、実際に映像作品と比較したり、映像を制作したりするわけではない。『こんぎつね』本文と、「絵コンテ」という情報を比較していくことになる。現段階では、実際に言語表現を映像表現に変換する能力が評価対象になるわけではないが、高等学校現代文Bの言語活動例の「ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。」を見通した学習活動であることはふまえておきたい。

四 『物語を読み解くーメディアの解釈』

本教材は、①「記憶の中の『こんぎつね』」、②「絵コンテを読む」、「③「比較から解釈を導く」の三つの学習活動で構成されている。

(一) 教材目録

◆言語表現と映像表現の違いについて考える。

◇視聴者や監督の立場で『こんぎつね』の映像化について検討する。

一貫しているのは『こんぎつね』の読解を軸とした言語活動である。

学習活動①では、『羅生門』、『銀河鉄道の夜』、『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』などを材料に、小説と映像作品の違いについて考え、そのうえで、記憶の中の『こんぎつね』を丁寧に掘り起こし、小学生時の印象を鮮明にする。そうすることで、実際に『こんぎつね』本文を再読した際に、印象の違いが明確になり、また、現時点の自分の『こんぎつね』に対する解釈も鮮明になる。②ではさらに、そうして鮮明になりつつある解釈を、絵コンテとの比較によってさらに明確にしていく。③では、①②をふまえて、いちばん気に入った絵コンテを選びその理由を述べるという形で批評を行う。比較されるのは、記憶の中の『こんぎつね』、『こんぎつね』本文、今の自分の『こんぎつね』の解釈、絵コンテという幾重にも質の異なる『こんぎつね』である。さらに、絵コンテは四種類提示されており、多様な解釈の中の一つを選び取っていく中で、「絵コンテ」というメディアの読解に必要な語彙を獲得し、批評としての言葉を支えることとなる。ゆえに、重要なのは、「絵コンテ」の読解である。

(二) 学習活動の流れ

- 1 作品を読むことと「語り直す」ことを、『こんぎつね』についての記憶と結びつけて考える。(①「記憶の中の『こんぎつね』」)
- 2 『こんぎつね』の四つの絵コンテから、映像や作り手の捉え方について考える。(②「絵コンテを読む」)
- 3 絵コンテの中から一つを選んでミニ批評文を書く。(③「比較から解釈を導く」)

本教材を全て通して行おうとする場合の設定は、三つの段階を経ることになる。順当にいけば三時間設定となるだろう。重要なのは、『こんぎつね』に対する多角的なアプローチである。多角的であるがゆえに、解釈が絶えず揺れる可能性もある。それゆえに、出発点となる「記憶の中の『こんぎつね』」をしっかり固めておく必要がある。評価規準例については次のようになっており、「読むこと」における「考えをまとめる」、「考える」という思考活動が評価対象となる。

(三) 評価規準例 * 「」内は学習指導要領との対応

- ・読んだ文章から適切な情報を得て、言語表現と映像表現の違いについて自分の考えをまとめている。【C(1)オ】
- ・言語表現と映像表現のそれぞれの特徴を比較しながら、作品の映像化について考えている。【C(2)ウ】

なお、本誌では「絵コンテを読む」について詳しく述べていく。

五 「絵コンテを読む」

(一) 「絵コンテを読む」の目的

絵コンテとは、映像作家たちが、他者に自分のイメージを明確に伝えるために使用される、映像作品の設計図のようなものである。台本と大きく違うのは、画面の内容が絵で表されていることである。アニメーションであれば、その絵は下絵の役割を果たすことになる。宮崎駿監督の絵コンテを見たことがあるだろうか？ そこに

はすでに完成作品で見せられる絵が鉛筆の線ですっきり描かれていることがわかる。

絵コンテを読む作業とは、そうした作り手の明確な意図を読み取る作業である。提示されている四種の絵コンテは画面だけが提示されており、ナレーションやせりふ、音楽などは提示されていない。タイトルに至る四つのカットが語りの方向性を決定づけ、見るものの姿勢を準備させるのである。詩のポスター同様、ここでも学習者に突きつけられるのは選択意識であり、その選択意識を他者に説明する言葉が求められることになる。

(二) 絵コンテという表現形態

一般的な絵コンテは、次に示すような形式をもっている。内容のところには、せりふや音楽、カメラや特殊効果の指示が入る。いちばん重要なのは画面に描かれる絵である。一つの四角に一つのカットが描かれる。図の絵コンテであれば五カットのシーンが描かれることになる。一つのカットは、言語情報でいえば、「文」のようなものである。例えば、五つのカットで一つの段落とでもいふべきまとまり(場面)をもつ。

画面	内容	秒

(三) 絵コンテを読む

四つの絵コンテは、教科書紙面に次のように説明されている。

「①茂平が『私』に語る場面」は、原作のもつ語りの枠組みを太前提としています。書きだしと比べても、原文にいちばん忠実だといえます。

「②ごんの紹介」は、主人公の日常から始まります。尻尾など体の一部から全体像を少しずつ見せていく、謎解きふうの語りです。

「③兵十とおつかあの紹介」は、いつどこで何をする人物なのかを丁寧に示す、解説ふうの語りです。

「④ラストシーンの音声」は、物語の結末を暗示し、誰がどのようにそこに至るのかを語り起こします。結末を強調することで原作の世界を再構築しようとする立場です。

絵コンテ①は、村の風景という大状況、座る茂平の姿をミドルショットで捉える中状況、語る茂平の口元のアップという小状況というように、「時空間設定→人物設定」と、順に状況説明を行う最も典型的な説明形式のカット構成である。茂平の顔を完全に映し出さないことで、個性のない語り手としての役割を与えようとの意図もよくわかる画面レイアウトとなっている。

絵コンテ②は、尻尾という小状況からの始まりである。主人公がきつねであることを徐々に示すことで、「これからこの主人公が何をするのか?」が見るものの動機となる作りになっている。

絵コンテ③は、兵十とおつかあが丁寧に説明されていく作りであ

る。ナレーションをつけるのであれば、「むかし、むかし、あるところ」に、兵十という男とおつかあが一緒に暮らしていました。二人は……仲よく暮らしておりました。」という語りになる。視聴者は兵十の目線で物語を見ることになり、「ごん」は、その平穏を打ち破る存在として印象づけられる。

絵コンテ④は、物語を悲劇として見てもらうための冒頭である。どのように平穏で平和な場面が描かれても、悲劇の伏線として視聴者は意識することになる。小学生時に『ごんぎつね』を読み、一人の読者として最も納得がいかなかったのは、「ごん」が亡くなることであつた。それが物語だというものと理解した今でも、その時抱いた印象は捨てがたい。「ごん」が死なない結末にたどり着くことはできないということを、絵コンテ④は強く指し示すともいえる。無論、銃口のみで、「ごん」の姿は描かれない。悲劇と見せかけてどんでん返しという方法も多く見られる手段ではある。そういう意味で最も見るもののドキドキハラハラ感を誘う作りである。

(四) 学習展開

年間指導計画としては一時間の設定であるが、ここでは二時間の設定で提示する。四つの絵コンテを分析する活動を行う。

学習展開例 (1, 2については入れ替えも可能)

1. 作り手が作品をどのように捉えているか考える。(一時間)
- ① 原作との共通点や相違点について表に整理する。
- ② それぞれの絵コンテについて、なぜこの場面から始まるのかを考

物語を読み解く

④ 結末から始まる	③ 人物を紹介する 2	② 人物を紹介する 1
ごんぎつね	ごんぎつね	ごんぎつね

絵コンテを読む

あらためて「ごんぎつね」を読んでみて、どのような印象を受けているか。記憶と通っているところに印をつけたら、よく覚えていた箇所や表現に線を引いたりしてみよう。

次の①④は、「ごんぎつね」をアニメーション作品にするにあたって描かれた、冒頭部分の映像案です。絵コンテとして描かれています。絵コンテとは、どのような映像をつないでいくかを表のように示した、映像の構成表です。

① 鷹が「ごん」に語る場面（原作どおりに始まる）
 ② ごんの紹介（人物を紹介する 1）
 ③ 兵士とおつかあひの紹介（人物を紹介する 2）
 ④ フラッシュバックの音声（結末から始まる）

タイトルシーケンスとは？

映像には、タイトルカット（題名表示場面）から始まるものと、タイトルカットの前の短い映像を「前映像」といいます。このタイトルカットと前映像を、タイトルシーケンスと呼びます。

タイトルシーケンスは、視聴者にこれからどのような物語が展開していくのかわかる、という想像力を喚起する効果があります。映像を見ながら、見る人の頭の中に次々と物語が動き出すのです。さらに題名が加わって、またぐんと物語の世界がはっきりと見えてきます。このように、視覚的イメージやBGMなどの音と、言葉が組み合わさって、映像の語りができていくのです。

「絵コンテを読む」（第2学年P104-105）

六 おわりに

『ごんぎつね』をメディア学習の観点から読み解く方法について提示した。私たちにとって「読む」という行為は、当然ながら見えにくい思考活動である。異なったメディアで表現された『ごんぎつね』の比較は、その見えにくい思考活動を言語化していくための工夫であり、現代の学習者の読みの過程を顕在化する作業でもある。映像は想像力をそこなわせるとの意見があるが、頭の中に描く図像を明確化する作業は、想像力に培う言語活動ともなる。発展段階としては、実際の映像作品との比較も行ってみよう。

- える。
- ③ 絵コンテから読み取れる作品のテーマについて考える。
2. 映像について考える。（二時間）
- ① それぞれの絵コンテについて（グループで担当を決めてもいい）、視覚的にどのような表現の特徴や効果があるかを話し合う。
- ② どのような人が視聴者として考えられるかを話し合う。
- ③ ①、②の話し合いをふまえて、それぞれの絵コンテについて、どのようなBGM、効果音、ナレーション、せりふが考えられるか、絵コンテシートを完成させる。
- ④ タイトルのあとの数カットについても展開を考えてみる。

■指導展開の例 50分授業（1／2時間め）

学習活動	DVD-ROMの活用場面	視聴時間
1 目標理解	- 目標を把握する。 「変化と連続に気をつけて行書で書くことができる」 - 電子黒板（①）教材文字『栄光』を提示する。	3分
2 試書	楷書との違いを意識して教材文字を見て書くようにする。	
3 基準確認	- 電子黒板（②）教材文字の動画を2回視聴する。点画の変化と連続を焦点化して見るようにする。 - 電子黒板（③）「木」の部分の点画がどのようなになっているか注視する。 - 動画で「光」の4画めから5画めの連続する運筆を注視する。	3分
4 練習①	電子黒板（動画④）生徒の実態に合わせて自由に動画が見られるようにする。	3分
5 練習②	生徒が自分の課題に合わせて練習する。	10分
6 まとめ・評価	基準に合わせて書いたか評価し合う。生徒相互に話し合い、生徒が課題について話し合うようにする。	
7 あと片づけ	筆の始末の仕方を再確認する。 電子黒板（動画⑤）	5分
8 硬筆への発展	教材文字『栄光』を硬筆で1分間連続で書くようにする。	



電子黒板（①）



電子黒板（②）



電子黒板（③）



電子黒板（④）



電子黒板（⑤）

教師用指導書付属DVD－ROMを活用した指導方法

——第1学年での行書教材『栄光』指導での活用アイデア

小金井市立小金井第一小学校校長 けんもち つとむ 釧持 勉

これからの書写指導は、単に教材文字を書けるようになるということではなく、生活に生きる書写力の向上がなくてはなりません。そして、特に国語科で求められている「話し合う力」の育成が書写の授業でもいっそう求められることになります。ここでは、毛筆教材『栄光』を使用して行書入門期の指導を行う「行書の書き方」を習得するためにDVD－ROMを効果的に活用し、指導をわかりやすく、確実な定着を図っていく指導方法の例を紹介します。

■電子黒板としての機能

平成24年度版「中学書写教師用指導書」付属DVD－ROM（以下DVD）教材には、行書教材のための「入門期指導の映像」「運筆動画」「練習用紙」などが収録しており、筆脈の連続を確認したり、どのような特徴のある行書かを理解するのに必要な箇所を、電子黒板を活用したりして定着を図ることができます。そのためにも、DVDの動画を全体で共有することで、授業が展開しやすくなります。

■行書指導におけるDVD活用のポイント

DVDの動画を活用することのメリットとして以下のことが考えられます。

- ①行書の一点一画の運筆が明確に理解できる。
- ②全体指導、個別指導、課題別指導に生かすことができる。
- ③自己の課題に合わせて、動画を分析的に視聴することができる。
- ④繰り返し視聴ができ、必要な箇所を必要なときに活用できる。
- ⑤自己の学びを振り返り、成果と課題を明確にすることができる。

・教材『栄光』DVDの動画の活用

教材『栄光』の楷書と行書を対比してどのような違いがあるか生徒に気づかせ、動画を見る場面を焦点化することができます。したがって、点画の変化と連続の学びをどのようにして理解を図るかで、目標達成のための学習方法も明確になります。

また、一単位時間の中での動画を展開の中でどのように生かすかで、活用方法が違ってきます。全体指導の中での共有化、個別指導の中での活用、課題別学習の中での活用といったように、授業形態を大きく変えることにより学びの保障をすることもできます。そして、動画を授業のなかで日常的に活用することで各校に設置されつつある電子黒板を教室の黒板と一体的に使用して活用を図ることになります。

情報機器の活用の一環として、生徒がコンピュータを活用する場と同じ視点に立って指導する必要があります。動画の活用が練習時間の減少を生み出したり、書写力向上につながらないのでは活用の意味がありません。日常生活に生きて働く書写の授業に転換できるものとして位置づける必要があります。

そのためには、生徒に動画の活用の手立てを示し、主体的に活動できる学習形態を工夫しなければなりません。情報機器を日常化につなげていく書写の授業にしていきたいと思います。

■練習用紙の活用

行書指導の際には、教材文字『栄光』の練習効果を考えた用紙を活用することが求められます。「栄」の「木」の部分をもとにどのように書くか、「光」の部分の4画めから5画めの連続の運筆をどのように書くかをポイントとして練習します。第1学年の行書入門期ということ意識して、生徒全員に学ばせるようにする必要があります。

中学校国語科書写観点別評価の

あり方について

小金井第一小学校校長 釘持 勉 けんもち つとむ

国語科では、『国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。』ことを目指している。このことを国語科書写において重点化すれば「文字感覚を豊かにして」取り組むことが求められる。

一 国語科の評価

国語科における観点別評価には「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の五つの観点が示されている。書写については、「言語についての知識・理解・技能」の項目の中で示されている。

【国語科の評価の観点及びその趣旨】

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、国語を尊重しようとする。	目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かにしている。
書く能力	読む能力
相手や目的、意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	目的や意図に応じ、様々な文章を読んだり読書に親しんだりして、自分の考えを豊かにしている。
言語についての知識・理解・技能	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて速く書いている。

国語科では、学習指導要領の内容の示し方やこれまでの実践を踏まえ、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」を学習指導要領の内容のまとまりに合わせ、基礎的・基本的な知識・技能と「思考・判断・表現」とを合わせて評価する観点として位置づけられている。そこで、五観点が設定されたのである。

この「思考・判断・表現」のうち「表現」については、国立教育政策研究所で示された『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の活用方法についてによると、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動などを通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としている。国語科の場合、今回新たに「評価規準の設定制」として言語活動ごとに「設定制」をまとめて示しているの
で、「思考・判断・表現」の評価は、各領域の言語活動例の中で行うという考え方となる。ここでは、「書くこと」における「評価規準の設定制」が書写学習に関わる指導事項について多く含まれていることをおさえておきたい。

書写においては、「書く技能そのもの」が評価の対象となるという性格上、これまでと同様に「言語についての知識・理解・技能」に軸足を置いて、ここである「表現」にあたる内容も含めて評価していくことが適切である。ただし、今回の学習指導要領では、「思考力・判断力」を駆使した「表現」がこれまで以上に求められていることを踏まえて、従来の「正しく整えて書く技能」とどまらず、新しい学力観に基づく「表現」を十分含めた「技能」評価を行うこ

とが求められる。

今回、「話す・聞く」「書く」「読む」の三つの領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」との密接な関連を図ることが強調されていることを踏まえ、書写学習を国語科の各領域、特に「書く」領域の言語活動と硬筆学習との関連を図りながら指導・評価を行っていくよう計画を立てていきたい。

【「書くこと」の評価規準を盛り込むべき事項 第1学年の例】
(イ 図表を用いた説明の文章を書く言語活動をととした指導)

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・図表を用いた説明の効果などを考え、分かりやすい文章を書くこととしている。	・日常生活の経験等の中から、図表を用いて説明するのにふさわしい事柄を見付け、その内容を簡単にまとめている。(ア) ・図表を示して説明する部分を意識しながら、段落を組み立てている。(イ)	・図表を説明するとき指示語や接続詞を工夫して使っている。(エ) ・学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。(ウ)(イ) 【書写】 ・メモをとる際に、漢字の行書の基礎的な書き方を生かしている。
〈略〉		

二 評価方法の改善・工夫について

国語科書写における評価については、毛筆で仕上げたものをいわゆる「作品」として扱い、硬筆書写へのつながりとなっていない実態もある。清書主義、作品主義ということが言われるように、書き上げた「結果」に対しての評価をすることが日常的に実践されていたり、生徒一人一人の書写の「学習過程」に対して、的確な評価が行われてきたとは言えない状況も見られる。「結果」の評価から「過程」の評価が尊重される書写の評価のあり方の転換が急務である。こうしたことから、評価観を改めて改善したい。

①受身的評価から主体的評価へ

生徒が教師にやらされている授業から生徒の主体を尊重して学んでいる姿を評価し、学習活動が生きる評価にする。

②否定的評価から肯定的評価へ

書いたものや仕上げたものに対して指摘するだけでなく、よさや努力したことを評価していくようにする。

③平均的评价から個別尊重の評価へ

「だいたいわかる」「だいたいできる」という評価ではなく、生徒一人一人が取り組んできたことを評価していくようにする。

④結果の評価から過程の評価へ

できばえだけを評価の対象にするのではなく、取り組んできた過程を重視してその場での評価に生かすようにする。

⑤一時的評価から継続的评价へ

単元全体にかかわる連続的な評価を重視して取り組むように

する。

⑥ 遅延的評価から即時的評価へ

生徒に対してその場での適切な評価を迅速にするようにして
時間的経過をかけないようにする。

⑦ 部分的評価から包括的評価へ

ある部分だけに偏った評価ではなく、全体に見定めてねらい
の達成に向けて近づけることのできる評価をする。

⑧ 量の評価から質の評価へ

たくさん書けばよい、練習すればよいというのではなく、内
容を考え質を意識した評価につなげていくようにする。

⑨ 教師の評価から自己評価、相互評価へ

教師による評価重視だけでなく、自分自身の評価、相互評価
によって交流をしたりしてよさを共有できるようにする。

これまで以上に教師の積極的なかわりや、生徒の立場を尊重し、
一人一人を認め励ます機会を多く取り入れるようにしたい。こうし
た評価観に裏づけられた授業があることで意欲や文字感覚の高まり
が期待でき、最終的には「生きる力」につなげていくことを認識
して実践にあたりたい。

三 評価規準の具体化

- (1) 学年に応じた規準の設定
- (2) 単元における規準の設定

教育出版では、中学校国語科書写の評価規準を四観点「書写の関

心・意欲・態度」「思考・判断」「技能」「知識・理解」として取り
上げられている。特に「思考・判断」の箇所は、思考・判断した結
果が表れるという考え方で示されている。また、「技能」は、これ
までの「技能・表現」の「表現」を含んだ部分として設定されている。

【教育出版中学校国語科書写の評価の観点】

点画の連続と変化『栄光』

書写の関心・意欲・態度		思考・判断
点や横画からの連続の筆使いにつ いて、課題意識をもって取り組ん でいる。	点や横画からの連続の筆使いを確 かめ、自己の課題を考えている。	
技能	知識・理解	
点や横画からの連続の筆使いに気 をつけて書いている。	点や横画からの連続の筆使いを理 解している。	

(3) 教材の学習計画に合わせた評価計画の設定

(4) 学習指導案に合わせた評価活動

特に、各教材をとおして生徒に身につけさせたいことは何か、生
徒の書写実態はどのようなになっているかなどを総合的に判断して、
評価規準を設定することを心がけて評価計画を立てていくことに意
味がある。

読者プレゼントのお知らせ

福岡伸一先生の直筆サイン入りの著書、『動的平衡2』か『フェルメール 光の王国』のいずれかを、抽選で四名のかたにプレゼントいたします。

官製はがきに、お名前、ご住所を明記のうえ、左の住所宛お送りください。（締切は、二〇二二年五月末日消印有効。）

発表は発送をもってかえさせていただきます。なお、お寄せいただきました個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用させていただきます。

〒一〇一〇〇五一 東京都千代田区神田神保町二一〇

教育出版株式会社 国語編集部

「道標」二〇二二年春号プレゼント係

編集部からのお知らせとお願い

平成24年度用『伝え合う言葉 中学国語』について

平成24年度用の教科書に、左記のような訂正箇所がございます。誠に恐縮でございますが、ご留意のうえ、ご指導くださいますようお願い申しあげます。

学年・巻	ページ	行・箇所	原文	訂正文
二年	67	図	義賢 ^{よじかた}	義賢 ^{よじかた}
〃	224	表	どのかた・どなた・どれ	どのかた・どなた・だれ
〃	225	6	そんな	そんな

編集後記

「道標」二〇二二年春（第二十四）号をお届けします。

この四月より、二〇二二（平成二十四）年度版教科書が使用開始となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

本誌では、移行措置のための資料を掲載しております。適宜、ご活用ください。（弊社ホームページ上でも公開する予定です。）

平成二十二年に改定された「常用漢字表」で追加された漢字や音訓などにつきましては、教師用指導書の『言葉のとびら』解説編に「漢字資料」を掲載しております。適宜、ご活用ください。

平成二十四年度版『伝え合う言葉 中学国語』移行措置資料（伝統文化と言語）

本年度より、新学習指導要領が全面実施され、それに基づく授業が始まります。教科書の内容も全面改訂されましたが、これにより、次のようなことが生じます。

①訓読の仕方 *二年生のための移行措置が必要

旧版教科書では、「訓読の仕方」は第二学年で扱っていましたが、新版教科書では、第一学年で扱うこととなります。これにより、今年度の二年生は、旧版教科書で「訓読の仕方」を学習せず、新版教科書でも学習する機会のないまま、中学校の学習を修了してしまうこととなりますので、移行のための措置が必要です。

②熟語の構成 *二、三年生のための移行措置が必要

旧版教科書では、「熟語の構成」は第三学年で扱っていましたが、新版教科書では、第一学年で扱うこととなります。これにより、今年度の二、三年生は、旧版教科書で「熟語の構成」を学習せず、新版教科書でも学習する機会のないまま、中学校の学習を修了してしまいうこととなりますので、移行のための措置が必要です。

③敬語（敬語の知識・理解） *三年生のための移行措置が必要

旧版教科書では、敬語の知識や理解に関する学習は第三学年で扱っていましたが、新版教科書では、第二学年で扱うこととなります。これにより、今年度の三年生は、旧版教科書で「敬語の知識・

理解」を学習せず、新版教科書でも学習する機会のないまま、中学校の学習を修了してしまうこととなりますので、移行のための措置が必要です。

本誌では移行措置のための資料をそれぞれ作成いたしましたので、適宜、ご活用ください。

【参考】

■「訓読の仕方」の新学習指導要領上の位置づけ

第一学年の伝イ(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

■「熟語の構成」の新学習指導要領上の位置づけ

第一学年の伝イ(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

■「敬語」（敬語の知識・理解）の新学習指導要領上の位置づけ

第二学年の伝イ(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

第一学年 訓読の仕方

【目標】 ●訓読の仕方を知り、音読して漢文特有のリズムを味わう。

漢文は、もともと中国の文章です。漢字だけで書かれ、語順が日本語と異なるので、私たちの祖先は符号ふごうをつけ、日本語に翻訳しながら読む訓読法を考えました。

■送り仮名……用言の活用語尾や助詞・助動詞を片仮名で漢字の右下に書きます。歴史的仮名遣いぶかを用います。

大たい 器きハ 晩ばん 成せいス 大器は晩成す。

偉大な人物は時間をかけてゆつくりと大成することという。

■返り点……漢文を日本語の語順で読むための符号。漢字の左下に書きます。

○レ点 一字下から返って読むときの符号。

守ル 株ヲ 株を守る。

昔、宋の農民が切り株にぶつかって死んだうさを手に入れて以来、仕事そっちのけでうさを待とうと切り株を守った故事から、古い慣習にとらわれて、変化や進歩をしないことをいう。

○一・二点 二字以上、下から返って読むときの符号。

借カル 虎トラノ 威（イ）みヲ 狐きつね 虎の威を借る狐。

虎に捕まった狐が「私は百獣の長だと神様に命じられた。」とだまし、虎を従えて歩くと獣たちが逃げ出したので、虎は獣たちが狐を恐れたと思い込んだという故事から、弱い者が有力者の権勢をかさに着ていばることをいう。

訓読法に従って漢字仮名交じりに改めたものを書き下し文といいます。

第一学年 熟語の構成

【目標】 ● 語句の構成の基本的な型を知る。

熟語の構成にはさまざまな型があります。

【主語―述語】型

前の部分が主語を表し、あとの部分が述語になる関係。

例 雷鳴らいめい 国営 市立 人造 腹痛 年長

【修飾―被修飾】型

前の部分があとの部分を修飾する関係。

例 晴天 残雪 厳守 激動 海水 砂丘さきゅう

【述語―目的語】型

前の部分が述語にあたる意味を表し、あとの部分が「……を」

「……に」などの意味でそれにかかる意味を表す関係。

例 読書 出荷しゅっか 乗車 帰宅 開会 発熱

【似た意味の漢字】型

前の部分とあとの部分が似た意味で並立する関係。

例 温暖 寒冷 河川かせん 岩石 单独 思考

【反対の意味の漢字】型

前の部分とあとの部分が反対の意味で並立する関係。

例 公私 増減 上下 左右 問答 明暗

【接頭語】型

「不」「非」「無」「未」などの接頭語がついて、あとの部分を打ち

消す関係。

例 不覚 非常 無理 未来

【接尾語】型

「的」「性」「然」「化」などが接尾語としてつく関係。

例 私的 水性 整然 液化

◎三文字以上の熟語 ▼▼▼

三文字以上の熟語も、すでにあげた構成の型で成り立っています。

例えば、「住宅不足」は、「住宅」が「不足」しているという意味で、「主語―述語」型となり、「扶養家族」は、「扶養」する「家族」で、「修飾―被修飾」型となります。

第二学年 敬語（敬語の知識・理解）

【目標】 ●敬語のはたらきや特徴について知る。

◎敬語とは何だろう？ ▼▼▼

次に示すのは、中学生のハルとアキの会話の一部です。

アキ あら、元気がないようだけど、どうしたの？
ハル 実は今日、商店街のパン屋さんで「職場体験」をしたんだ。
そうしたら……。
アキ 例によって、何か、やっちゃったんだ？
ハル 逆だよ。できなかったんだ……。
アキ 何ができなかったの？
ハル お客さんとのやりとり。お客さんが来たんだけど、その人の買いたいパンが、まだ焼きあがっていなかったから、「悪いけど、三十分たったら、また来てよ。」って……。
アキ そのまんま言っちゃったの？
ハル ……うん。おかげで店長さんから大目玉。
アキ あらあ。
ハル ちゃんと敬語を使えばよかったんだろうけど、慌て（あわ）ていたから……。

ハルは、お客さんにどのような言い方をすればよかったのでしょうか。

言葉は、その内容もちろん大切ですが、内容さえまちがっていなければ、どのような言い方をしてもよいかといえば、決してそうではありません。特に、話し言葉の場合、それがどのような場面なのか、自分と相手とはどのような関係なのか、などを判断し、その場にふさわしい表現の仕方を選ぶ必要があります。

ハルの場合は、次のような条件が、表現の仕方を選ぶ観点になります。

- ・パン屋さんの店先という場所。
- ・お客さんと店員という関係。
- ・商品を買ってくれるお客さんへの感謝と、待たせてすまないという気持ち。

さて、お客さんに気持ちよく買い物をしてもらうには、どのような言い方をすればよいでしょうか。

聞き手や読み手などの相手に、敬意を表す言葉を敬語といいます。敬語というと、堅苦（かた）しく形式的な印象を抱（いだ）かれますが、敬語についての正しい知識をもち、適切に使うことで、私（わたし）たちは互いに尊重し合い、よりよい人間関係を築くことができるのです。

◎敬語の種類とはたらき ▼▼▼

尊敬語

話題の中の人物（相手・相手側^{がわ}の人物など）を高めて言う言葉を尊敬語といいます。

【語例】

おっしゃる（↑言う） お使いになる（↑使う）

なさる（↑する） 読まれる（↑読む）

〔敬意を表したい相手からの〕お言葉・ご説明

お元氣 ご立派 お名前 ご趣味^{しゅみ} ○○様 ○○殿^{どの}

【使用例】

・「がんばれよ。」と先生がおっしゃった。（相手の行い）

・「お客様のご住所は？」（相手に関係した事柄）

・「とてもお忙しいようですね。」（相手の状況^{じやうきやう}）

謙譲語^{けんじやうご}

話題の中の人物（自分や自分側の人物など）の動作が向かう相手を高めて言う言葉を謙譲語といいます。

【語例】

申し上げる（↑言う） お目にかかる（↑会う）

お届けする（↑届ける） ご案内する（↑案内する）

〔敬意を表したい相手への〕ご案内・ご説明

【使用例】

・「先生に花束をさしあげました。」（自分の行い）

・「お世話になった方へお手紙を出す。」（自分から相手に向かう事柄）

なお、自分の側の行い、物事などをへり下らせて言うとき、敬意を表したい相手が話や文章の聞き手や読み手となる場合は、**丁寧語**として区別することもあります。例えば、「明日から家族旅行へ参ります。」などの場合は、聞き手に対する敬意を表す表現です。

丁寧語^{ていねいご}

改まった場面や相手に対して丁寧^{ていねい}に述べる言葉を、**丁寧語**といいます。文末の表現であることが特徴です。

【語例】

文末の「です」「ます」「でございます」

【使用例】

・「今日は四月三日です。」

・「山田君^{やまだ}を紹介^{しょうかい}します。」

美化語

物事を、上品に美しく表現する言い方を、**美化語**といいます。直接^{たれ}には、誰^{だれ}に対しての敬意も含まれていないのがふつうです。

【使用例】

・「ここではうまいお米がとれる。」

・「冷たいお水がほしい。」

漢字	音 訓
窃	セツ
薦	セン すす-める
織	セン
阻	ソ
租	ソ
措	ソ
粗	ソ あら-い
疎	ソ
双	ソウ ふた
壮	ソウ
莊	ソウ
搜	ソウ さが-す
挿	ソウ さ-す
喪	ソウ も
騒	ソウ さわ-ぐ
妥	ダ
墮	ダ
情	ダ
逮	タイ
択	タク
脱	ダツ ぬ-ぐ
丹	タン
胆	タン
畜	チク
逐	チク
室	チツ
懲	チョウ こ-りる
墜	ツイ
邸	テイ
締	テイ し-まる
斗	ト
逃	トウ に-げる のが-す

漢字	音 訓
倒	トウ たお-れる
凍	トウ こお-る ご-える
匿	トク
篤	トク
軟	ナン やわ-らか
式	ニ
尿	ニョウ
粘	ネン ねば-る
把	ハ
輩	ハイ
拔	バツ ぬ-く
罰	バツ バチ
範	ハン
蛮	バン
避	ヒ さ-ける
匹	ヒツ ひき
描	ビョウ えが-く か-く
猫	ねこ
怖	フ こわ-い
赴	フ おもむ-く
侮	ブ
伏	フク ふ-せる
覆	フク おお-う
紛	フン まぎ-れる
雰	フン
捕	ホ と-らえる つか-まえる
抱	ハウ だ-く いだ-く かか-える
褒	ほ-める
傍	ボウ
朴	ボク
墨	ボク すみ
翻	ホン

漢字	音 訓
又	また
銘	メイ
妄	モウ
猛	モウ
網	モウ あみ
憂	ユウ うれ-える
与	ヨ あた-える
誉	ヨ ほま-れ
庸	ヨウ
揚	ヨウ あ-げる
揺	ヨウ ゆ-れる
擁	ヨウ
抑	ヨク おさ-える
羅	ラ
頼	ライ たの-む たよ-る
酪	ラク
慮	リョ
了	リョウ
厘	リン
累	ルイ
励	レイ はげ-む
戾	もど-す
零	レイ
麗	レイ
烈	レツ
裂	レツ さ-く
廉	レン
楼	ロウ
惑	ワク まど-う

三省堂→教育出版

◆2, 3年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版三省3年 → 新版教出1, 2年）の漢字

※2年生は の漢字のみ必要。

漢字	音訓
握	アク にぎ-る
威	イ
偉	イ えら-い
緯	イ
壺	イチ
陰	イン かげ かげ-る
畝	うね
浦	うら
影	エイ かげ
鋭	エイ するど-い
汚	オ よご-す きたな-い
翁	オウ
卸	おろ-す おろし
禍	カ
箇	カ
戒	カイ いまし-める
概	ガイ
勘	カン
敢	カン
款	カン
寛	カン
憾	カン
鑑	カン
頑	ガン
奇	キ
幾	キ いく
棄	キ
騎	キ
却	キヤク
虐	ギャク

漢字	音訓
窮	キユウ
扱	キョ コ
虚	キヨ
享	キョウ
狭	せま-い せば-める
恐	キョウ おそ-れる
斤	キン
緊	キン
刑	ケイ
恵	ケイ エ めぐ-む
継	ケイ つ-ぐ
迎	ゲイ むか-える
堅	ケン かた-い
賢	ケン かしこ-い
謙	ケン
幻	ゲン まぼろし
孤	コ
呉	ゴ
坑	コウ
恒	コウ
慌	あわ-てる
衡	コウ
獄	ゴク
懇	コン
碎	サイ くだ-く
債	サイ
歳	サイ セイ
載	サイ の-せる
崎	さき
錯	サク

漢字	音訓
肢	シ
雌	シ め めす
慈	ジ
疾	シツ
邪	ジャ
蛇	ジャ ダ へび
釈	シャク
需	ジュ
酬	シュウ
肅	シュク
庶	ショ
緒	ショ チョ お
升	ショウ ます
症	ショウ
粧	ショウ
鐘	ショウ かね
剌	ジョウ
慎	シン つつし-む
薪	シン たきぎ
尽	ジン つ-くす
迅	ジン
衰	スイ おとろ-える
遂	スイ と-げる
随	ズイ
髓	ズイ
井	ショウ い
請	セイ う-ける
析	セキ
隻	セキ
惜	セキ お-しい



三省堂→教育出版

◆2年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版三省2年 → 新版教出1年）の漢字

漢字	音訓
依	イ
違	イ ちが-う
暇	カ ひま
雅	ガ
壊	カイ こわ-す
川	か-る
陥	カン おちい-る
換	カン か-える
歓	カン
企	キ くわだ-てる
岐	キ
忌	キ
菊	キク
叫	キョウ さけ-ぶ
仰	ギョウ <u>コウ</u> あお-ぐ
傑	ケツ
剣	ケン つるぎ
嫌	ケン <u>ゲン</u> きら-う いや
碁	ゴ
項	コウ
綱	コウ つな
剛	ゴウ
恨	コン うら-む
栽	サイ
彩	サイ
催	サイ もよお-す
咲	さ-く
擦	サツ す-る
脂	シ あぶら
漆	シツ うるし

漢字	音訓
秀	シュウ
充	ジュウ
柔	ジュウ ニュウ やわ-らか
獣	ジュウ けもの
潤	ジュン うるお-う うる-む
詳	ショウ くわ-しい
彰	ショウ
償	ショウ つぐな-う
礁	ショウ
丈	ジョウ たけ
触	ショク ふ-れる さわ-る
伸	シン の-びる
紳	シン
寝	シン ね-る
審	シン
粹	スイ いき
睡	スイ
穂	ほ
杉	すぎ
是	ぜ
栓	セン
遷	セン
桑	くわ
掃	ソウ は-く
槽	ソウ
替	タイ か-える
卓	タク
端	タン はし はた
鍛	タン きた-える
恥	チ は-じる はじ

漢字	音訓
遅	チ おく-れる おそ-い
痴	チ
彫	チョウ ほ-る
珍	チン めずら-しい
塚	つか
訂	テイ
途	ト
塗	ト ぬ-る
桃	トウ もも
透	トウ す-く
盗	トウ ぬす-む
稻	トウ いね いな
督	トク
突	トツ つ-く
鈍	ドン にぶ-い
忍	ニン しの-ぶ
濃	ノウ こ-い
杯	ハイ さかずき
幅	フク はば
憤	フン
簿	ボ
忙	ボウ いそが-しい
凡	ボン
魔	マ
眠	ミン ねむ-る
免	メン
厄	ヤク
躍	ヤク おど-る
罌	ルイ
梓	わく
腕	ワン うで

漢字	音 訓
駄	ダ
鍛	タン きた-える
畜	チク
逐	チク
挑	チョウ いど-む
墜	ツイ
塚	つか
坪	つば
邸	テイ
撤	テツ
塗	ト ぬ-る
棟	トウ むね
稲	トウ いね いな
匿	トク
督	トク
篤	トク
曇	ドン くも-る
忍	ニン しの-ぶ
泊	ハク と-まる
漠	バク
罰	バツ バチ
閥	バツ
畔	ハン
頒	ハン
藩	ハン
蛮	バン
泌	ヒツ
扶	フ
符	フ
譜	フ
侮	ブ
併	ヘイ あわ-せる

漢字	音 訓
舗	ホ
募	ボ つの-る
邦	ホウ
泡	ホウ あわ
胞	ホウ
砲	ホウ
褒	ほ-める
墨	ボク すみ
撲	ボク
麻	マ あさ
厄	ヤク
幽	ユウ
憂	ユウ うれ-える
庸	ヨウ
窯	かま
虜	リョ
獵	リョウ
陵	リョウ
寮	リョウ
厘	リン
累	ルイ
零	レイ
麗	レイ
廉	レン
鍊	レン
杵	わく

漢字	音訓
鈴	レイ リン すず
裂	レツ さ-く

漢字	音訓
露	ロ <u>ロウ</u> つゆ
廊	ロウ

漢字	音訓
漏	ロウ も-る
湾	ワン

光村図書→教育出版

◆2, 3年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版光村3年 → 新版教出1, 2年）の漢字

※2年生は■の漢字のみ必要。

漢字	音訓
扱	あつか-う
尉	イ
慰	イ なぐさ-める
緯	イ
疫	エキ
炎	エン ほのお
猿	エン さる
禍	カ
靴	くつ
稼	かせ-ぐ
蚊	か
悔	カイ く-いる くや-しい
潟	かた
褐	カツ
勘	カン
監	カン
艦	カン
岐	キ
忌	キ
狂	キョウ くる-う
享	キョウ
峡	キョウ
偶	グウ
蛩	ケイ ほたる
儉	ケン
圜	ケン

漢字	音訓
謙	ケン
弦	ゲン
弧	コ
碁	ゴ
香	コウ か かお-り
溝	コウ みぞ
昆	コン
恨	コン うら-む
壑	コン
懇	コン
宰	サイ
彩	サイ
債	サイ
催	サイ まよお-す
滋	ジ
慈	ジ
湿	シツ しめ-る
邪	ジャ
寂	ジャク さび さび-しい
狩	シュ か-る
需	ジュ
囚	シュウ
愁	シュウ
汁	ジュウ しる
叔	シュク
肅	シュク

漢字	音訓
庶	ショ
緒	ショ <u>チヨ</u> お
抄	ショウ
晶	ショウ
剌	ジョウ
錠	ジョウ
審	シン
粹	スイ いき
穂	ほ
随	ズイ
据	す-える
瀬	せ
是	ぜ
姓	セイ ショウ
隻	セキ
禅	ゼン
租	ソ
措	ソ
粗	ソ あら-い
莊	ソウ
搜	ソウ さが-す
喪	ソウ も
葬	ソウ
賊	ゾク
墮	ダ
惰	ダ

光村図書→教育出版

◆2年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版光村2年 → 新版教出1年）の漢字

漢字	音訓
偉	イ えら-い
皆	カイ みな
概	ガイ
較	カク
肝	カン きも
堪	た-える
頑	ガン
既	キ すで-に
菊	キク
叫	キョウ さけ-ぶ
隅	グウ すみ
携	ケイ たずさ-える
嫌	ケン <u>ゲン</u> きら-う いや
玄	ゲン
孤	コ
枯	コ か-れる
慌	あわ-てる
綱	コウ つな
剛	ゴウ
豪	ゴウ
獄	ゴク
込	こ-む
裁	サイ
擦	サツ す-る
脂	シ あぶら
漆	シツ うるし
酬	シュウ
充	ジュウ
柔	ジュウ ニュウ やわ-らか
獣	ジュウ けもの

漢字	音訓
潤	ジュン うるお-う うる-む
沼	ぬま
症	ショウ
詳	ショウ くわ-しい
彰	ショウ
礁	ショウ
鐘	ショウ かね
唇	くちびる
薪	シン たきぎ
甚	はなは-だ
吹	スイ ふ-く
睡	スイ
斉	セイ
析	セキ
扇	セン おうぎ
壮	ソウ
槽	ソウ
騷	ソウ さわ-ぐ
妥	ダ
卓	タク
棚	たな
胆	タン
遅	チ おく-れる おそ-い
釣	つ-る
鎮	チン
訂	テイ
泥	どろ
添	テン そ-える
豚	トン ぶた
濃	ノウ こ-い

漢字	音訓
輩	ハイ
拍	ハク <u>ヒョウ</u>
縛	バク しば-る
盤	パン
疲	ヒ つか-れる
扉	とびら
匹	ヒツ ひき
瓶	ビン
敷	し-く
幅	フク はば
覆	フク おお-う
沸	フツ わ-く
憤	フン
簿	ボ
忙	ボウ いそが-しい
剖	ボウ
朴	ボク
翻	ホン
凡	ボン
盆	ボン
又	また
漫	マン
免	メン
紋	モン
躍	ヤク おど-る
揚	ヨウ あ-げる
抑	ヨク おさ-える
竜	リュウ たつ
壘	ルイ
励	レイ はげ-む

漢字	音 訓
矛	ム ほこ
霧	ム きり
滅	メツ ほろ-びる
網	モウ あみ
紋	モン
厄	ヤク
躍	ヤク おど-る
踊	ヨウ おど-る
擁	ヨウ
抑	ヨク おさ-える
羅	ラ
吏	リ
柳	リュウ やなぎ
粒	リュウ つぶ
虜	リョ
慮	リョ
獵	リョウ
隣	リン とな-る となり
麗	レイ
裂	レツ さ-く

教育出版継続使用

◆2, 3年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版教出3年 → 新版教出1, 2年）の漢字

※2年生は の漢字のみ必要。

漢字	音訓
亜	ア
哀	アイ あわ-れ
宴	エン
鉛	エン なまり
菓	カ
怪	カイ あや-しい
涯	ガイ
滑	カツ コツ すべ-る なめ-らか
艦	カン
鑑	カン
棋	キ
輝	キ かがや-く
欺	ギ あざむ-く
虐	ギャク
窮	キュウ
拒	キョ こば-む
況	キョウ
恐	キョウ おそ-れる
謹	キン つつし-む
愚	グ おろ-か
迎	ゲイ むか-える
傑	ケツ
儉	ケン
孤	コ
枯	コ か-れる
呉	ゴ
恒	コウ
酷	コク
懇	コン
唆	サ

漢字	音訓
碎	サイ くだ-く
劑	ザイ
肢	シ
雌	シ め めす
疾	シツ
湿	シツ しめ-る
漆	シツ うるし
釈	シャク
爵	シャク
酬	シュウ
醜	シュウ みにく-い
充	ジュウ
瞬	シュン
盾	ジュン たて
徐	ジョ
匠	ショウ
床	ショウ とこ ゆか
償	ショウ つぐな-う
縄	ジョウ なわ
慎	シン つつし-む
薪	シン たきぎ
迅	ジン
甚	はなは-だ
帥	スイ
粹	スイ いき
請	セイ う-ける
隻	セキ
旋	セン
禪	ゼン
疎	ソ

漢字	音訓
搜	ソウ さが-す
即	ソク
駄	ダ
胆	タン
端	タン はし はた
壇	ダン
眺	チョウ なが-める
懲	チョウ こ-りる
墜	ツイ
締	テイ し-まる
撒	テツ
怒	ド いか-る おこ-る
到	トウ
倒	トウ たお-れる
踏	トウ ふ-む
伐	バツ
被	ヒ こうむ-る
碑	ヒ
浜	ヒン はま
瓶	ビン
侮	ブ
舞	ブ ま-う まい
雰	フン
偏	ヘン かたよ-る
募	ボ つの-る
胞	ホウ
褒	ほ-める
膨	ボウ ふく-らむ
翻	ホン
妙	ミョウ

平成24年度版

『伝え合う言葉 中学国語』

移行措置資料（漢字）

■ 4月から新しい教科書をお使いいただくにあたり

本資料は、教科書の改訂（および採択会社の変更）の際に必要な漢字の移行措置を行うためのものです。ご指導にあたっては、適宜、本資料をご活用ください。

音訓欄の、片仮名は音読みを、平仮名は訓読みを、__線は特別な読みや用法のごく狭い読みを示します。

教育出版継続使用

◆ 2年生で移行措置が必要となる漢字

*（旧版教出2年 → 新版教出1年）の漢字

漢字	音 訓
翁	オウ
靴	くつ
壊	カイ こわ-す
概	ガイ
肝	カン きも
陥	カン おちい-る
堪	た-える
環	カン
菊	キク
丘	キウ おか
狭	せま-い せば-める
隅	グウ すみ
屈	クツ
恵	ケイ エ めぐ-む
嫌	ケン ゲン きら-う いや
懸	ケン か-ける
悟	ゴ さと-る
荒	コウ あら-い あ-れる
獄	ゴク
恨	コン うら-む
斎	サイ
削	サク けず-る

漢字	音 訓
柔	ジュウ ニュウ やわ-らか
潤	ジュン うるお-う うる-む
晶	ショウ
詳	ショウ くわ-しい
伸	シン の-びる
辛	シン から-い
振	シン ふ-る
吹	スイ ふ-く
据	す-える
姓	セイ ショウ
斉	セイ
槽	ソウ
騷	ソウ さわ-ぐ
袋	ふくろ
恥	チ は-じる はじ
沈	チン しず-む
鎮	チン
添	テン そ-える
塗	ト ぬ-る
透	トウ す-く
突	ツツ つ-く
曇	ドン くも-る

漢字	音 訓
忍	ニン しの-ぶ
濃	ノウ こ-い
拍	ハク ヒョウ
縛	バク しば-る
罰	バツ パチ
微	ビ
描	ビョウ えが-く か-く
幅	フク はば
覆	フク おお-う
沸	フツ わ-く
泡	ホウ あわ
冒	ボウ おか-す
魔	マ
慢	マン
漫	マン
憂	ユウ うれ-える
与	ヨ あた-える
揚	ヨウ あ-げる
励	レイ はげ-む
漏	ロウ も-る

(1)

-31-



平成24年度用 中学校教科書準拠 教授用ソフトシリーズ

デジタル教科書

伝え合う言葉

中学国語 1～3年

各学年予価 **73,500円** (本体+税)

※学年ごとのお求めとなります。学年をまとめた価格ではありません。

教科書の文字や絵，写真が大きくなる！



絵・写真拡大



教育出版デジタル教科書のポイント

- 1 画面をできるだけ広く使えるようにツールの配置等を工夫しています。
- 2 ツールは直感的に選べるようにわかりやすいデザインにしています。
- 3 電子黒板がない場合も、パソコンとプロジェクタ等で使えるように設計しています。
- 4 写真はできるだけ明るい色彩調とし、投影式の機器（プロジェクタ）でも見やすいよう配慮しています。
- 5 カラーユニバーサルデザインを意識して、色数を抑えた判別の工夫をしています。
- 6 文字のサイズは、読みやすさを損なわない範囲で最大限大きく表示しています。

中学国語通信 道標 【2012年 春(第24)号】

2012年3月30日 発行

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

地球となかよし
学育出版

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル6F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル6F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒810-0001	福岡市中央区天神2-8-49 ヒューリック福岡ビル8F TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル8F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411